

三島地区の今昔

三島開墾全図
明治20年代後半から30年代初めの図



現在の三島地区
主な道路(赤線)などは当時の面影が残る



天皇の間記念公園(旧塩原御用邸新御座所)
三島通庸の別荘が後に皇室に献上され塩原御用邸となった

を發揮した。また、彼が行った都市計画の跡は、現在も基盤の目のように整備された三島地区の区画として残っている。さらに、彼は道路整備にも力を入れ、西那須野から塩原温泉を経て福島県境の山王峠に至る塩原新道の整備も行った。折しも、この道路と東京から引かれた鉄道により、尾崎紅葉や夏目漱石など多くの文化人が塩原温泉を訪れるようになり、その名が全国に広がった。

今でも彼の功績を称えるため、三島地区の三島神社例大祭(10月)や、塩原地区の塩原三恩人感謝祭(9月)といった催しが、地元の人たちにより毎年欠かさず行われている。

「三島」の地は 私たちにとって特別な場所——

毎年、三島神社のお祭りに参列させていただくと、多くの子どもたちや若者が参加しています。かつて肇耕社があったこのエリアが、今でも人口が増え続け、また一部が公共施設に有効活用されるなど、市の発展に寄与できていることは、三島家としても誇りであり、大変嬉しく思っています。



三島通庸の子孫
三島 通文 氏

三島通庸の息子は日本初の五輪代表

三島通庸の5男・三島弥彦は、日本人初のオリンピックの一人。明治45年(1912)の第5回ストックホルムオリンピックに、金栗四三選手と共に出場を果たした。

【三島弥彦が大河ドラマに登場】

平成31年1月から放映されるNHKの大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」に三島弥彦が登場します。詳しくは、



三島地区の街並み

開拓の幕開け

前人未踏。何事も「初めて」は勇気がある。不毛の大地・那須野が原に初めて民間農場を設立した三島通庸。彼のこの行動が那須野が原開拓の先駆けとなった。

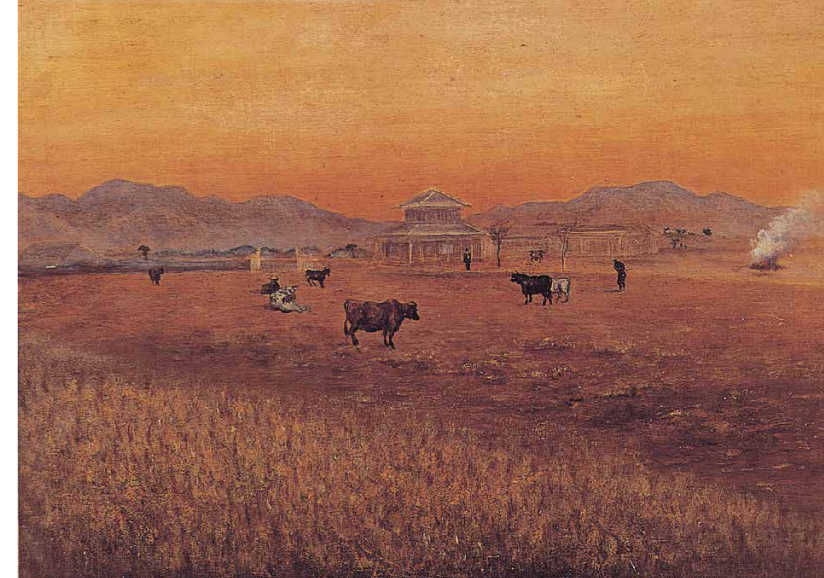
那須野が原開拓の急先鋒

那須疏水の開通に前後し、那須野が原には数々の農場が設立された。特に最も早くこの地に設立された民間の農場が、後に栃木県令となる三島通庸らが起こした「肇耕社(後の三島農場)」だ。肇耕社の誕生に引き続き、前述の印南丈作らが「那須開墾社」を起し、次第に華族たちの農場が設立していくことになる。なお、肇耕社の設立は明治13年。当時は那須疏水もなく、農場では主に開墾・牧畜・植林を行っていた。また、那須野が原開拓の話聞きつけて、県内だけでなく遠くは鳥取や徳島から移住者たちも現れた。肇耕社では移住者に対して土地の分与や分譲を行い、開墾にあたらせた。肇耕社の事務所があった場所には、開拓の歴史を今に伝える那須野が原博物館が建っている。

今も残る開拓の足跡

三島通庸が行った農場経営による開墾事業や道路整備などが基になり、那須野が原は急速に開けていく。三島通庸は明治16年に栃木県令、翌17年には内務省土木局長となり、那須疏水の開削や都市計画などに手腕

肇耕社事務所が描かれた、高橋由一の
鬻道八景(下野那須郡三島村平野放牛)
(明治18年)



みしま みちつね
三島 通庸

山形・福島・栃木県令、内務省土木局長、警視總監。子爵。道路整備や都市計画に手腕を發揮。いち早く那須野が原に農場を創設した。